

# ゴミ出し困難者への対応は

## ゴミニテイー活動に支援



おなが まさひろ 議員  
小永 正裕

### 答 尾崎 税務・住民課長

ゴミ出しの課題1つ目は、町の全世帯の内約5分の2が高齢者の世帯で、うち約4分の1が高齢者の単身世帯で年々増加している。

また、介護保険制度の要介護、要支援認定者は、平成28年度814人、29年度857人と増加している。

高齢者のみの世帯も増加傾向で、老老介護の状況が深刻になっている。

**問** ゴミ出し困難者の現状をどう把握しているのか。そういう方々への支援の用意はあるか。あるとすれば、その具体的な内容を問う。

他の自治体では、ゴミステーションの場所が近くにない場合、通り掛かりのゴミ収集車に手を挙げると、そこで収集してくれるなど柔軟に対応している事実もある。様々な支援の方法が考えられるが今後の取り組みを問う。

2点目は、ゴミ出しの現状把握のため昨年、区長、民生委員さんにご協力いただきアンケート調査を行った。結果、高齢化が進むにつれ支援が必要な世帯が増加した。ゴミステーションが遠い、収集時間に間に合わないなどの意見から、ゴミステ

ーションの増設やゴミ出し時間の弾力化が必要なのことが分かった。

3点目は、地域の自助、共助が機能しないことによるもので、地区での組織化への支援が必要と判明した。

今年度は、ゴミステーションを増設し、次年度以降は高齢者や障がい者の方を対象に、地区内の支援組織に対して、リヤカーとか小車などの運搬資機材の購入費用の支援を行う。

また、時期は未定だが、自助、共助で対応できない高齢者等に対して、声掛けや見守りなど、福祉的施策の支援を検討する。

### 高規格道路 入野、田の口 地区の被害は 国土交通省が 説明予定

**問** 入野、田の口、鞭下前地区の住民数は何人か。小川から早咲国営農地にかけては15mの高さで

土盛工法だが、完成した場合、入野、田の口、浮鞭下前の住民の安否は、心配ないと考えているのか。

国交省に「避難タワーに逃れた人々は大丈夫か」と聞いたとき、「調べてから説明する」との答弁だったが、1年たっても説明はない。

震度7で揺られて、10m以上の津波が何回も襲来すると、この土盛工法のルートでは、道はまともに残らないと推測できる。山側のルートを要望すべきだ。

また、入野松原に、高い土盛工事で津波を減衰させる建議をしたとのことだが、どうなったのか。

### 答 大西町長

3地区の住民の総人数は、合計4457人。

地区への津波の影響や災害については、国土交通省が平成24年度に高知県が行った津波浸水予測を基に、高規格道路などの条件を追加して津波浸水高さの確認をしている

と聞いている。  
工法について国からは、想定される震度に耐える構造で設置すると聞いている。今、ルートがどうかという段階ではないが、どこを通っても盛土工法のないルートというのはもうあり得ない。ど

こかがリスクを背負わなければならぬのは当然あるべきことだと思っている。  
また、松原の中の高盛土の工法については、その後の進捗はよくはない現状。



ゴミステーション